

消えたユニオン組織情報?? 東海労組合員をストーカー呼ばわり!?

新大阪駅のユニオン掲示板に、ユニオン関西地本組織情報12号（平成27年4月27日付け）が掲出されました。「東京にストーカー現れる??」「東海労はあなたを狙っている!!」といった見出しの情報でした。ところが、数日経ってから新たな組織情報12号（5月8日付け）が発行されました。新たに発行された情報では、「東京にストーカー現れる??」の見出しが削除されていて内容も何点か変わっています。（詳細は5月19日発行のJ R東海労新幹線関西地本情報第695号を見て下さい。）

ユニオン組織情報では、東京での食事と名古屋での署名のことが書かれていますが、どちらも事実と違います。名古屋での署名については、ユニオン組合員が自ら署名をしてくれました。東京での食事については、あろうことか東海労組合員をストーカー呼ばわりをして、人権侵害と言っているほどの許されない表現を使っています。

ユニオンとして事実と違うことで東海労批判する前に 組合員を守るためにやることがあるのではないか！

ユニオンとして事実と違うことで東海労を批判する前に、もっと他にやることがあるのではないのでしょうか。今職場では、何が起きていて、どのような環境で自らの組合員が置かれているのか把握をしていますか。会社はスキルアップのために自己啓発を称して、本来業務の他に自己の時間での勉強会やQC等が行われていて、心休まる時がない状況下に置かれているのが現実です。またちょっとしたミスに対して厳しく対応されます。そうした厳しい環境下に置かれた結果として、心の病を余儀なくされているユニオン組合員が存在しています。そうした自らの組合員に救済の手を差し伸べるべきです。

労働組合としての役割は、労働条件の維持改善はもとより、組織を形成する組合員の健康・安全を守ることが最重要課題です。思い悩み苦しんでいる組合員と真摯に向き合い、声なき声に耳を傾け話を聞き、その組合員が何に悩み苦しんでいるのかを掴み、その解決に向けて労働組合として努力をしていくのが当然の責務です。

事実とちがうことで東海労を批判している暇はないはずです。自らの組合員を守ることに努力を傾注すべきです。発行した情報を訂正して黙って再び発行する前に、会社に向かうべきです。それが組合員を守ることになります。